

「グループ別意見交換」の発表

浜松会場(8月21日)

第1グループ

・Aさん。幼児のことばの教室の先生。参加は2回目。周りに吃音の人がいないから、自分の研修として参加。言葉の教室には治ることを期待してくる人が多い。

親が (1)治す方向 (2)受け止める方向のどちらか。言葉の教室としては(2)まで。子供が話すことを楽しいとおもうまで、親が子供の様子をみて安心するまでが治療。

・構音と吃音、発達障害と吃音、鼻咽腔構音と吃音について。発達障害の原因は不明。

→ダウン症の中で吃音が併発することもある。

→鼻咽腔構音によって周りの人が聞き直すから、話せなくなる。

・吃音であることを親が気付いているが、子供が気付いていない場合

→認識させるべき? →子供が気付いて、家でその事について話せるまで待つ。(気付いたら、吃音を教えてあげる)

・Bさん。娘をことばの教室に通わせたい。吃音について知識がないため、図書館で知識を得てから教室にいった。娘は吃音に気付いていて、保育園に行きたくないという。保育園の先生は、園ではあまり吃音症状がでていないという。

→吃音を知らない人が多い。お茶を濁せばいいのではないかという考え方の人がいる。

・保育園の先生と母親では接している時間が異なる。本人に意識させないほうがいいのか。

→自分で自覚するのを待つ。

・教室へは遊びに行く感覚で行っている。母親ときたほうが、よく話す。

・言葉の教室に通ったことによる改善度は?

→長く通うケースもある。母親の満足度。0にしたい人が多い。完全に治ったと思って、通わなくなる人もいるが、浮き沈みが激しいことを伝える。

第2グループ

〈お孫さんが吃音をもっている祖母〉

・発吃:3歳

悩み:近所の子供にからかわれる「何でそんな話し方なの?」など
(だが子供は疑問に思ったことを口に出してしまうため難しい)



・この話し方は癖だから のように適度に伝える(適度なカミングアウト)

・学校の先生から生徒へ吃音だということを伝えてもらう

・自分がいけないと否定せず、周りがサポートする

・自分が熱中できるものを見つける

・吃ることを否定しない

・言葉の教室に通っているが小学校を卒業したらどうするべきなのか



・地域ごと違いがあるため考えなければならない

・医療機関に通うのも選択肢としてある

〈吃音は・・・〉

・環境の変化が原因だと考えがちだがそのように考えないほうが良い

・言葉の発達が早い子の方が吃音になる確率が高い(IQが高い?)

・幼少期、本人に悩みがあると大人になっても吃ってしまう

・

〈発達支援学級の先生〉

今担当しているクラスには吃音の子はいないが今後のためにお話を聞きにいらっしやっていた。



第3グループ

仕事で自信がついたことが、吃音の状況が良いことにつながっている。

大2の息子が吃音、小4から吃音が始まった。

落ち込んだり、よくなったりを繰り返していた。

高2の冬休みから学校へ行かなくなった(中退)。

高卒検定を受け、名古屋の大学(法学部)に行っている。

法学と特別支援を志望していたが、吃音の波があり、落ち込んでいる。

名古屋の言友会につながる機会があったが、行っていない。

親しい友達はいない様子、サークルやバイトはやっていたが、バイトは吃音が原因なのかやめてしまった。

就職するのも難しいのではないかと、本人は思っている。

気分の波があり、落ち込むと良くない。心配しすぎだろうが、自殺も心配する。

聖隷で、発吃前のイメージを思い出す練習をしていたようだが、今は何もしていない。

離れて暮らしているのだから、何かきっかけがあれば、しかし、両親があまり言っても。

自信を持たせることが大切。わかってくれる友達が一人でもいればいいのですが。

うちの子もどもり、一言もことばに関して言ってこなかった。

子どもの力を信じて割り切ってきた。

落ち込まなければ心配しないのだが、兄弟は吃音の弟を気にかけていない。

子どもの生きる力を信じる大切ではないか。

生きることにつながる自信が必要で、できることはいくらでもある、なぜ自信がないのか不思議だ。

仕事の自信がついてきて、時に を借りて話ができるのは素晴らしいのではないか。

第4グループ

テーマ「吃音を理由に社会との関りを断つ成人について」

親御様が心配で吃音講座に参加

(ご本人(お子様)に来場を促すも参加いただけず)。

社会との関りを断つお子様に対してどう接するか？

親御様は、「本人が思うほど、吃音の症状はひどく無いのでは？」との発言。

一方で、「本人の症状や深刻度は本人でなければ分からない」との意見あり。

「外に出ること。どんな場所場面でも良いので、まず一步踏み出すことが良いのでは？」

ご自身が脳梗塞により、麻痺、失語症を経験されている方から意見をいただいた。

病は違えども、いや障害度はもっと大変であろう方より懸命に努力されている体験談をいただき、身が引き締まる思いあり。

「症状の軽い、重いはあれど同じ吃音当事者と関われる当講座にはぜひご本人に参加いただきたいかった。」との意見あり。

「社会へ踏み出すきっかけとして、吃音当事者と交流が可能な「言友会」を有効利用していただきたい。」との結びとなった。



静岡会場(10月9日)

Aグループ

① 吃音についての意見

- ・吃音講座に参加して良かった。気にしないで前向きに生きて行くことが大事であると思う。実際に回りは気にしていない。例会にも是非参加したい。
 - ・集団での話が苦手。飲み会が苦手。聞き手になることで対応している。大きな声を張れないのも吃音が影響か？
 - ・家でもドモルが、夫婦喧嘩では不思議とドモラ無い。独り言が多い。
 - ・日々の暮らしが充実すれば、吃音は改善される。
 - ・緊張しているとドモラず、家でリラックスしているとドモル。
- 中学生の時に生徒会長を務めた。選挙の時に、全校生徒の前で吃音をカミングアウトし、ドモリながら演説をしたが、結果は圧勝であった。どもっても気持ちは伝わる。

② カミングアウトの是非

- ・カミングアウトはしていない。必要も今の所はなしと考えている。
- ・入社後間もなくの朝礼で上司にドモリを注意されたことを機会にカミングアウトした。回りに理解を得られたので、カミングアウトは必要であると考えている。
- ・カミングアウトにより仕事を結果的に辞めなければならなくなった事例あり。一概にカミングアウトが正しいとは言えない。

Bグループ

- ・それぞれが吃音を考えるようになったきっかけ

- ・吃音と社会との関わり
吃音は社会にまだ全然知られていない
社会に吃音を知ってもらうために何ができるか

- ・吃音の原因
様々な原因が考えられると思うがいまだにわかっていない

- ・吃音はことばだけの問題ではない
精神的な面の問題もある。(ex.吃音者の看護師が自殺してしまった事件について)

- ・問題点について
普通という概念がよくない。
すらすらと話しているが気持ちがこもっていない話し方と吃音がありすらすらではないが気持ちがこもっている話し方では後者の方が良い。



Cグループ

言語聴覚士の方が2名いらっしやった。吃音の勉強のために参加した。

【STはどこの病院にいる？】

- ・聞こえや飲み込み、脳血管障害も臨床では見ている。
- ・吃音はあまり臨床現場ではみない。

【難発と連発について】

- ・難発の方が、精神的に苦しい。
- ・182人で3人吃音、連発2名、難発1名。その後、連発の症状は消えた→連発の方が治りやすい。
- ・難発であることを自分が気にしている、気にしなくなれば堂々としていられる。
- ・難発だと就職の時苦しい、例えば電車の切符を買えない。先々のことを気にしてしまう。
- ・周りに気付かれにくく、苦しい。

【小倉アナウンサー】

- ・原稿を読む時に吃りそうになって、仮病を使って回避。
- ・精神的に悩んでいない
- ・吃音はあるが、本番の時スイッチが入り、吃らない→みんながスイッチを持てれば、救いになる。

⇒吃音は一人ひとり違うから、治り方もことなると思う。同じ吃音でも、静かな時に出る人もいれば騒がしい時に症状が出る人もいる。

Dグループ

Aさん(元教員)

若いころは“どもり”でいろいろ悩むこともありましたが、教職に就くことで前向きに乗り越えることができました。今は定年を迎え、社会活動に参加していますが、常々頭から離れないのが、若いころもった自分です。今回この催しものの情報を得たので参加させてもらいました。

そこで、是非皆さんにも知ってほしいと思って、毎日新聞(8月17日全国版)のコピーを持ってきましたので紹介します。そこには、

「知らない人との電話、不審者と思われ」

(吃音の苦悩、法廷で訴え)

「身体障害者手帳」市に申請するも却下され提訴の記事

又、別のアンケートの記事の中で、就職試験の面接などで自分をコントロールできるか心配、吃音を知っている人と面接ができればと、思ってしまうなど(学生21歳)の紹介。このような悩みにどう答えられるか、会としても頑張してほしい。

◎ 全体の中でAさんには特別に発言していただきました。

Bさん(学生)

言友会に参加するようになったきっかけは、大学の先生の勧めが大きかったです。“ことば”吃音に関心を持ったのは、知り合いの中にことばに不自由な人がいたのが、この道に進んだ理由です。いろいろな話を聞いて勉強になります。もっと理解を深めることができると思っています。

Cさん(主婦)

主人が言友会に参加するようになったので、私も一緒に参加しています。私は吃音より、“ことば”そのものの発生が不自由です。いろいろ診てもらいましたがわかりません。

D まとめ 少人数でいろいろな話は出ましたが、元先生の話を中心に大まかなまとめです。

Eグループ

他の方々のお話を聞くことができ、非常に参考になりました。

ディスカッションから、吃音は吃音そのものよりも吃音に伴う感情のコントロールが大切であることを学んだ。面接や発表、その他仕事関係の発声など、先のことを心配して不安を増大させることは逆効果。不安は全く役に立たない。

楽しいことをする、考え方を切り替えるなどの対処法を自分なりに用意して不安に対処することが重要。吃音が出た後の後悔などのネガティブな感情も、引きずらないよう工夫するべきである。

吃音は小学校の時から、主婦、子ども2人、女性の集いなどボランティア活動をしている。大学生、就職も内定、言い換えで吃音を出さないようにしていると、いろいろと語彙の勉強になった。段階的に進めることのできる人に。 いやなことを進んで行く。

ボランティア活動の前にカミングアウトして参加。

困っていることはないが不安はある。 → 避けることのできないことに、不安を持っても無駄だ。

吃音コンプレックスと肥満コンプレックスがあったとしたら、どちらを選ぶか。

吃音でいい、肥満と交換しない。 / 私は吃音より肥満のほうがいい。 二つの意見があった。

吃音から逃げない、逃げてもその先にまた何かがあり、いつまでも逃げなければいけない。

吃音は自分が思っているほど、他の人は気にしていない。

吃音に振り回されない、考え方を変える。

吃音の症状が大きくなる前に相談をしてほしい。

参加者の皆様からのご意見

浜松会場(8月21日)

昨年に引き続き参加させていただきます。幼児ことば担当2年目です。

吃音について詳しくわかりました。ありがとうございました。
良かったことは、いろいろな年代の方のお話を伺えたこと。4歳に娘に吃音があり、参加させていただきました。
専門的なわかりやすい話をたくさん伺えて良かったです。
本で読んでいただけのことを〇〇先生がまとめてお話してくれたことが、とても良かったです。
また、グループでは話したいことを領いて聞いていただけ良かったです。

当事者の方のお話が直接聞けて良かったです。

DAF(聴覚遅延フィードバック法)は以前からどんなものか気になっていました。
実際に試すことができ良かったです。

吃音と失語症は違うと認識しました。

良かったことは、専門家の話が聞けたこと。
体験発表聞いて、みなさん前向きで努力されていることが良く伝わりました。
資料の中に、改善方法、アドバイスなど見て参考にしたいと思いました。



静岡会場(10月9日)

市内の幼児言語教室で指導員をしています。

クリニックで吃音外来を行っているST(言語聴覚士)です。現在、大学院で臨床心理士になる勉強をしています。
貴重な講演をありがとうございました。

良かったことは、実際の当事者の方のお話を聞けたこと。
今後の臨床の場で活かせるお話を聞かせていただきました。

このお知らせが学校に通う子に周知されていればよいなと思いました。
吃音が流暢に発表されているのを聞けたこと、これは、カミングアウトされているこの場だからこそだったのかもしれないと感じました。

吃音の方を知らない人から見ると、わかりにくい、理解されにくいものなのかもしれないと感じました。
発表する際に、見ると良いページを言っていたいただいたほうが、資料を活用しやすいかと思いました。

吃音当事者の方々の体験を聞くことができ、参考になったと思います。
浜松言友会に興味を持ちました。
今日参加させていただいて、本当に良かったと思いました。

グループ別意見交換が良かった。
体験発表というだけに前を向いている(前向きな)人が多く、少し居心地が悪く感じた。
私は吃音者で、少しだけ前を向きだした(吃音と向き合い始めた)ので講座にも参加してみようという気持ちになったが、前を向けない辛い気持ちのほうが大きい人が講座に参加したら、何を感じるだろう・・・と、そういう思いになった。でも、子どもたちや学生には励みになる発表だろうと思った。

良かったことは、医師・研究者・STの方々の意見が聞けたこと。
グループディスカッションのほうが、時間として貴重だと思う、その時間をもっとほしい。
吃音で困っている人に対する一番の解決策は、社会への理解を浸透させることなのではないでしょうか、と考えました。

同じ悩みを持つ人と話せた点が良かった。

〇〇先生の講演が良かった。
〇〇先生の話(何が何だか分からなかった)
一番良かったのは後ろに貼ってあった〇〇先生の発表です。
特に、吃音が進行するに従い本人の悩みは深くなるのに、周囲の心配は小さくなるというのは、実感していることそのものです。インターネットに載っていると思いメモしてこなかったのですが、インターネットに載っていない残念です。